

令和5年度 社会科 授業改善推進プラン

大田区立入新井第二小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・全学年の数値を見ると、どの観点も目標値と同程度か下回るという結果が出ている。「知識・技能」の定着については、5年は同程度、「思考・判断・表現」の定着については4・5年がほぼ同程度である。6年生に関しては全てにおいて下回る結果となった。昨年度よりは数値は上がっている領域もあった。今後も基礎的な言葉を繰り返し覚えるだけでなく、意味や背景も含めて理解させ、活用していくように取り組んでいく。

(2) 課題

- ・「資料活用能力」では、一つの社会事象について複数の資料を扱い、関連付けてとらえさせることを授業の中で意識的に取り組んだ。しかし、資料の活用に関する問題で読み取ることができず、間違える児童が多かった。今後も丁寧に資料の読み方を指導していく必要がある。
- ・「考える力や表現する力」では、思考・判断・表現の観点でどの学年も目標値と同程度・もしくは下回るという結果が出ている。単元ごとに重要な言葉を用いて文章に表す場面を設定し、考える力や表現する力を育てたい。また、「調べてわかったこと」「そこから自分が考えたこと・感じたこと」を文章に表現させ、事実と意見を分けてまとめていけるように引き続き指導していく。
- ・「関心・意欲・態度」では、主体的に学習に取り組む態度の観点で全学年ではないが目標を下回る結果が出ている。体験的な学習や見学に取り組むづらい状況なので、ICTの活用や導入の工夫といった手立てを継続していく必要がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

目標値と比較 △：目標値以上 =：目標値同程度 ▽：目標値未満

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第4学年	知識・技能 ▽ 思考・判断・表現 = 主体的に学習に取り組む態度 =	/	/
第5学年	知識・技能 = 思考・判断・表現 = 主体的に学習に取り組む態度 =	知識・技能 ▽ 思考・判断・表現 = 主体的に学習に取り組む態度 ▽ (第4学年時)	/
第6学年	知識・技能 ▽ 思考・判断・表現 ▽ 主体的に学習に取り組む態度 ▽	知識・技能 = 思考・判断・表現 ▽ 主体的に学習に取り組む態度 ▽ (第5学年時)	知識・技能 ▽ 思考・判断・表現 ▽ 主体的に学習に取り組む態度 ▽ (第4学年時)

(2) 分析 (観点別)

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を下回るという結果が出ている。市の様子や安全な暮らしについてはだいたい理解できている。工場の仕事などの理解が不十分である。	目標値と同程度という結果が出ている。グラフや地図などの資料に着目して情報を読み取ることを苦手としている児童が多い。	目標値と同程度という結果が出ている。店ではたらく人では写真を基に工夫を見つけれられていた。しかし、記述式問題において、無回答も見られた。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
5年生は目標値と同程度できている。6年生は多くの項目で目標値を下回っている。5年生は都道府県の様子・自然災害から暮らしを守るは理解が不十分である。	5年生は目標値と同程度、6年生は下回るという結果が出ている。複数の資料やグラフから関連付けて情報を捉え、判断していくことが苦手な児童が多かった。	5年生は目標値と同程度、6年生は下回るという結果が出ている。記述式問題においては無解答が多く、目標値を下回るものもあった。粘り強く問題に取り組む力が十分ではない。

3 授業改善のポイント (観点別)

(1) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
問題解決型の学習を通して、用語・語句等の知識をわかりやすく指導する。その際、その言葉の意味やその背景が理解できるように心掛ける。地図の読み取りは繰り返し指導を行い、定着するように指導していく。地図記号・都道府県名は、重点的に指導をしていく。	一つ一つの資料の読み取り方の指導を丁寧に行う。そのグラフから何を読み取るか視点を与え、資料の読み取り方の基礎を定着させる。学習感想やまとめを書くことを習慣化させ、自分の考えを書いたり、キーワードを用いてまとめを書いたりできるようにする。どのような視点で書くのかを明確にした上で表現させるようにする。	社会的な事象が身近に感じられるように、実際に体験したり見学したり ICT を活用したりする学習を取り入れる。その中で、調べ方を身に付けさせたり、働く人の立場に立って考えたりできるようにする。

(2) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基礎的な用語・語句については、繰り返し指導をし、まとめの場面でキーワードとして重点的に指導する。また、地図記号、都道府県名、暮らしをささえる水、工業生産と貿易、歴史上の重要人物については、フラッシュカードや白地図、小テスト等を活用し、繰り返し定着させる。	中学年に引き続き、資料の基礎的な読み取り方を繰り返し定着させる。その上で複数の資料から読み取ったことを関連付けて考えさせ、説明できるようにする。資料から多くの事柄を読み取れるように指導していく。学習感想やまとめは、事実と意見を分けて書くように指導する。	身近な教材を扱ったり、タブレット、デジタル教科書等を用いて資料をできるだけ視覚化したりして、学習意欲を高めながら活動に取り組めるようにしていく。